

台湾總統府からの招待を受け、五月二十日の總統就任式へ三度目の公式訪台となる「總統就任式参列訪台団」(黃文雄団長)として参列した翌二十一日、予定になかった李登輝前總統との面会が急遽実現し、短時間ながら、台湾総合研究院においてお話を拝聴する機会に恵まれました。李前總統は台湾のアイデンティケーションの問題などをテーマに、とても満八十一歳とは思えないほどエネルギーギッシュに話されました。ここにその折の講話をご紹介します。

(編集部)

## 【李登輝前總統講話】

### この四年で台湾を変える!!

台湾はこれから、前よりももっと努力しなくてはならない。そして、台湾の民主化を固めていく。私の希望としてはアイデンティフィケーション (Identification) 帰属意識・一体化) をこの四年の間に七五% へもっていく。その間に憲法を作り直しするとかね。できたらね、国の名前も変えちゃうんだ。

あのね「リパブリック・オブ・チャイナ」(Republic of China 略称ROC) というのは日本でも使っていないでしょう。台湾だけで使っているのがおかしくて、これを直すんだけど、やっぱり苦労しますね。というのはね、蔣介石と一緒に来た国民党の政權、やっぱり台湾には二百万人くらい人がおりますからね、この連中は反対を加えますよ。ま、だから徐々に徐々に一歩ずつ。でもね、昨年、正名運動をやって正しい名前に変えましようと思った。たくさん集まっちゃってね。まあ、あの調子でね。

さっき韓国の方と話したんですが、台湾でいま非常にうるさいのがアイデンティフィケーションの問題をスムーズにどうやっていくかということ。台湾にはね、エスニック問題はありません。いちばん大事なのはね、台湾を国と思う、これは私の国だと思う人がね、そんなにいないこと。しかも、五十年間の昔の教育。私が台湾人と言ったように、司馬遼太郎さんに言ったように「台湾人に生まれた悲哀」。

というのは、台湾の四百年の歴史は戦後になって急になくなっちゃって、中国大陆の歴史と結びついた。そうしたら今の若い人、私たちのおやじさんやおじいさん、おばあさんの歴史は何か、分からないだよ。ちょうど今の日本の若い人が日本の歴史をあんまり分からないのと同じくね。台湾はもつとひどいんですよ。ぜんぜん蔑ろにしてきたもんだから、空白なんだ。おじいさん、おばあさん、何だ、何の生活をやってきたのか(分からなくなっている)。

最近「跳舞時代」といって、台湾でダンスが始められた(ことを描いた)記録編の映画が出たんだよ。若い女性が作った映画ですよ。一九三〇年頃のロンビア(レコード)の流行歌。それが基礎になって……。今の若い人たちは「台湾でもこんなに早くから流行歌がある。それとダンスもやる。そして自由恋愛もする。おお、面白い。台湾の歴史っていいな」と思いついてるんだよ。それをどんだん分かせないといけない。それで私が(黃崑虎氏が会長)「李登輝之友会」全部に見なさいと言ってるね。

われわれ百回言ってもね、映画一つ見て初めて「ああ、こうだったのか」と。そういうことはね、つくづく感じられるんですよ。黄

さん（黄崑虎会長）、これから台湾全土にわたってこの映画まず見せましよう。

十時間の歴史の講義をやっても、映画二時間見ただけで「おー、そうか」。そういうふうに変わるんですよ。それを今、台湾でもつとやらずなくちゃいけない。この「群策会 Taiwan Advocates」（李登輝前総統は財団法人群策会の理事長）は、この仕事はっかりだ。教育、それから教え込む。いい映画あったら「こういう映画はね」と、作るのを楽しみにしている。

最近、八田與一さんの烏山頭、嘉南大圳の映画を作るそうだ（会場 大歓声）。私も行ってサポートする。それで台湾がどうなってきたか、それを見せないといけないんだよ。我々の祖先は昔からとも進んだ社会に住んどったということを分らせるんだよ。



李前総統は短時間ながら密度の濃いお話をされた（5月21日、台湾総合研究院）



李前総統に乙旗と「明治天皇と日露大戦争」のビデオを贈呈

台湾の今の若い人には、昔からの台湾の歴史はなくなっちゃっている。蔣介石政権が台湾に来た戦後のこの歴史を、中国大陆とつないでしまったんだ。今の若い人、分らないのは空白の状態にあるからで、その空白を埋めなくちゃならない。誰がやるのか。（自らを指さされて）おじいさんがやる、おじいさん。（会場 大爆笑）

日本も同じ、おじいさんが孫に話をするのがね。おじいさんと孫が戦争について話をする。おじいさん、言わないんだよ。今のおやじ、だらしがないから。日本でも同じだ。台湾でも同じ。じゃあ、台湾のアイデンティティーが一番悪いのは何歳頃の人と思う？ 五十歳。それで案外いいのはね、十代。十代の人、いいよ。二十歳の人……だんだん下がって、いちばん悪いのは五十歳。それからだんだん上がっていく（宙に指でUの字を描きながら）。六十、七十、八十歳。一〇〇%のアイデンティティーがこういう状態（自らの胸をたいたいて）。

大陸から来た外省の連中たちね。一代目、二代目、三代目、四代目と、こうね。今ね、フランスの学者が研究しているんだ。報告が出たよ。その報告を見ると、三代、四代は一代よりずっといいですよ。だから私は非常に希望をもっている。まあまあ、生きている間に台湾のアイデンティティーを、もう七五%ではなくて一〇〇%にもっていったら、台湾しめたもんだよ。台湾を本当に民主化した社会、民主化の政治、そういうところにもっていく。台湾はそうなのと、本当に日本の生命線だよ（笑）。日本は絶対に安全だよ。そういうところにやらなくちゃならない。

今日、皆さん来ましてね、実際あまりお話しする時間がなくて、

皆さん、わざわざいらつしやいましてありがとうございます。

陳總統が当選した。私もね、実を言うと（投票日の）三月の二十日はハラハラしとつてね（笑）。大丈夫かなあと心配しました。まあまあ一応。今いろいろな問題が起こってますが、あまり気にしないでください。台湾の人民はだんだんとアイデンティフィケーションが強くなって、そしてやっぱり陳總統サポートですよ、最後は。陳總統はやはり台湾の人々を代表しているということになります。

そういうようなことで、皆さんがわざわざ慶祝会に参加してくれましてありがとうございます。

（李登輝前總統より日本李登輝友の会へ記念品贈呈）

李 皆さんに差し上げます。百万人の人間の鎖のビデオも入っている。使ってください。

（柚原正敬事務局長より李登輝前總統へ記念品贈呈）

柚原 ありがとうございます。李登輝先生、これはですね、Z旗でございます。

李 ああ、そうか。Z旗か。「皇国の興廢、この一戦にあり」。この前来た時も言ったなあ。（李前總統とは、三月十二日〜十四日の台湾總統選挙視察団で訪台した折に。高雄でお会いした）。勝たなきゃそうだな。

柚原 十二月には立法院選挙もございしますので。それで、先生もご覧になったかもしませんが「明治天皇と日露大戦争」、このビデオもお持ちしました。

李 はい、ありがとうございます。ありがとうございます。皆さんに大事にされて恐縮恐縮。本当に奮闘しなきゃならない。ありがとうございます。

---

五月三十日に開催した本会の第二回総会に、李登輝前總統よりご祝辞を頂戴しました。すでに会場では披露させていただきましたが、ここに改めてご紹介します。（編集部）

---

## 祝 辞

阿川弘之会長をはじめ副会長の皆様、理事の皆様、会員の皆様。本日の日本李登輝友の会第二回総会に当たりまして、一言ご挨拶を申しあげます。

まずは日ごろよりわが国を強く支持され、そして台日の親善交流を精力的に推し進められる貴会に対し、心から御礼を申し上げます。また僅か一年半で全国的に千人以上の会員を持ち、五つの支部を成立させ、日本最大の親台湾団体となったことに敬意を表します。

さらに、私が総召集人を務めた昨年九月六日の正名運動にも参加され、あるいは今年二月二十八日の「手護台湾、百万人人間の鎖」に呼応し、東京で「台湾支持」をアピールするデモ行進を行い、台湾人を励ましてくださったことにも感謝しております。

さて、わが国では先日總統選挙が行われ、日本の皆様の多大なる声援のおかげもあり、本土化政策を推進する陳水扁總統が無事再選を果たしました。

今回の陳總統の勝因には、国民の台湾人意識の高揚がありました。先に述べた台湾正名運動も人間の鎖もそれぞれ大成功を収めたように、台湾人は現在、「台湾は台湾人の国家であり、決して中国の一部

ではない」という意識のもとで大団結し、新国家建設に向けて着実に前進しているところです。もちろん、このような台湾の動きに対し、中国は妨害活動を強めています。今回の総統選挙や公民投票をめぐっても、この国は日米政府などを通じ、多大なる圧力をかけてきました。

しかし、世界の方々に知ってもらいたいのは、歴史的に見ても国際法的に見ても、台湾は中国の領土ではないということです。そして、台湾がいかなる国家形態を採るかは、台湾人自身が決定するべきだということです。ところがこれら自明の理を、なぜ日本政府は理解しようとしなんでしょうか。中国は台湾併合をもくろむ侵略国家です。このような国に日本が配慮し、その言いなりになることは、明らかに台湾侵略に加担することに等しいのです。

台湾は現在、台湾人の手になる新憲法を制定しようとしています。なぜなら現在の中華民国憲法は、中華民国が中国において中国のために制定したものであり、台湾人のための憲法ではないからです。この憲法に従えば、台湾の国名は中華民国ですが、中華民国は一九四九年の時点ですでに消滅し、現在は存在しません。また、この憲法が規定する領土にしても、現在では中華人民共和国やモンゴル国の領土になっており、これほど嘘で塗り固められたものはありません。ご承知の通り、総統選挙後の台湾では、潔く敗戦を認めない野党が騒乱を起していますが、その騒乱の本質も中華民国体制下の国家意識の混乱によるものです。

台湾は国家正常化のため、正名を一刻も早く行わなくてはならないのです。それはつまり、台湾の名を「中国」から「台湾」へと改

めることです。そして、そのためにも必ず新憲法の制定を行わなくてはならないのです。これは住民自決に属する問題であり、中国やその他の諸国が妨害するべきことでは決してないのです。

台湾人はこのようにして新国家を建設し、自国のみならず、東アジア全体の平和と安全を防衛しなければなりません。そしてそのためには、やはり日本とも協力し合わなくてはならないのです。しかし今の日本を見ていると、甚だ心許なさを感じます。中国に気兼ねをするばかりで、政府には何ら台湾政策すら打ち立てていない有様です。このような状態でどうして東アジアの平和を守って行くことができるのでしょうか。

私は台湾人に対し、台湾人のアイデンティティと、それに基づいた国家意識、国防意識の構築を訴え続けてきましたが、それと同時に日本人に対しても、覚醒を求めてきました。なぜなら台日は明らかに運命共同体であるからです。日本の皆様にはぜひこのような観点に立ち、台湾の新たな国造りを見守っていただきたいと思っています。そして、正義のためなら犠牲をも惜しまない武士道精神を回復し、台湾人とともに立ち上がっていただきたいと思います。

日本李登輝友の会は、そのような精神をお持ちの方々集まりであると聞いております。今後も我々台湾人と大いに提携してまいりましょう。

最後に貴会のみますますのご発展、ご健闘を心よりお祈りいたします。

二〇〇四年五月三十日

李 登輝